

『働くことを軸とする安心社会～まもる・つなぐ・創り出す～』の実現を目指して！

NO. 78
2025年 7月1日

連合西部

ニュース

いきいき

連合島根西部地域協議会

〒697-0022

島根県浜田市浅井町64-2

TEL: 0855-24-2055

FAX: 0855-24-2056

○発行責任者 高平 淳一

○編集責任者 堀江 元気

今年、連合平和行動の前に、「戦後・被爆80年」という節目の年をむかえ、「核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現」に向けた取り組みを強化することを目的に連合広島主催の「連合広島 戦後・被爆80周年シンポジウム」が6月1日(日) 広島国際会議場で開催され、西部地協から堀江が出席しました。シンポジウムでは、基調講演として、元広島市長の平岡敬氏から「被爆80年・ヒロシマ再考」その現在地とこれから」と題し講演を受け、高校生平和大使による活動報告・広島県立宇品中学校吹奏楽部による演奏が行われ、最後に連合の平和行動から生まれた劇団「I PRAY」による平和創作劇が行われました。集会・平和コンサートを通じて改めて平和の尊さと大切さを感じる時間となりました。6月には、連合と



して「恒久平和への希求と平和運動」を全国で推進していくことを目的として、沖縄集会所が開催され西部地協からは青年女性委員会を中心に、6月23日、24日にかけて開催した沖縄集会所に鶴原幹事(JR西労組)、琴野青年女性委員(江津市職労)に参加頂きました。沖縄では1日目に基調講演と平和式典、2日目にはピースフィールドワークと7年ぶりとなるデモ行進に参加し戦争の悲惨さや現状について学ぶことができました。

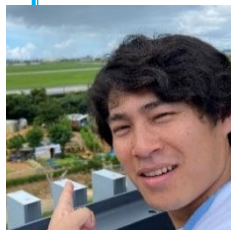
今後は、広島集会所、長崎集会所、根室集会所が開催を予定しており各地で参集することを通じて戦争の実相を知り、平和の尊さを学び、運動を継続していきたいと思えます。



2025年連合平和行動へ参加！

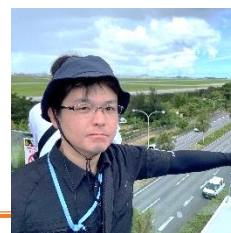
これまで平和学習といえば、広島に関係することが多かったのですが、この度、平和行動を通じて初めて沖縄の歴史について学びました。広島は原爆被害とは違い、街の至る所に残る沖縄地上戦の戦跡を実際に目の当たりにし、戦争の恐ろしさを改めて痛感しました。そして、現地を訪れ、話を聞くと多くの事実を知ることができました。そこには私には想像もできないほどの苦しみがあり、そのことを考えると胸が痛みました。戦争で傷つくのは敗戦国だけではないということ、そして傷つくのは人の心だけではないということ、物理的な破壊や伝統が消滅することを再認識することができました。また、現在も続いている基地の問題についても現地に足を運ばないとわからないことが多くありました。過去の歴史から複雑に絡み合ったこの課題を解決するのはとても大変なことですが、可能な限り早く解決が必要だと感じました。世界では今なお紛争が絶えず起きており、苦しんでいる人達がいると思うと胸が痛みますが、同じ過ちを繰り返さないためにも一人一人が学ぶことで平和が当たり前でないことを認識し、一つの目標に向かって行動することが大切だと思いました。

(江津市職員労働組合 琴野海流)



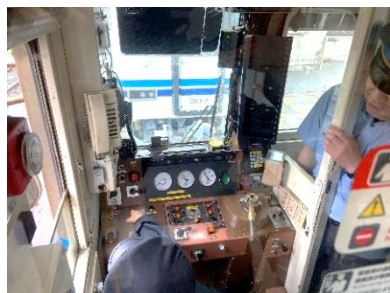
3日間の行程を通して当たり前にある平和がどんなに尊いことが改めて感じさせられました。1日目の平和オキナワ集会所では屋良朝博衆議院議員から『新たな安全保障を目指して！』と題して基調講演をしていただき、安全保障の概念から米軍と自衛隊の関係、台湾有事シミュレーション等メディアでは報じられない話を聞くことができました。平和式典では平和とは・戦争とは何かを知り、未来に向けて何ができるか考え行動するいい機会になりました。2日目のピースウォークで新聞やニュースで報道されている辺野古新基地建設予定地や東洋最大の広さの嘉手納飛行場、住宅地の中心にある普天間飛行場を実際に見学し想像以上の広さや、数分おきに離発着を繰り返す空中給油機、輸送機や戦闘機の轟音、ジェット燃料の排気ガスの匂い等を間近で体感し太平洋戦争が終結した今でも広大な米軍施設が沖縄県に集中している現実を目の当たりにしました。読谷村波平のチビチリガマという自然にできた鍾乳洞を住民が防空壕として使用していたところの慰霊では、米軍が間近の砂浜に上陸し敵に捕まり弄ばれ殺されるぐらいなら自決しようとお互いに決め家族や近所の住民同士で鎌や包丁、あらかじめ軍から配られていた手榴弾、毒薬注射を使用したり着ていた衣類を燃やして煙を吸って命を絶った方が83人もおられたことを知り身内同士で殺し合うことになる戦争の恐ろしさと無念さが胸が苦しくなりました。平和行動を通して毎日、命の心配をすることもなく平穏に暮らして食事や睡眠がとれている当たり前が今あることへの感謝と2度と戦争が起きないように1人1人の国民が無関心ではなく選挙に行って自分の意思表示をすることの大切さを学びました。

(JR西労組 鶴原智彦)



第21回公共交通利用体験ツアー開催

5月25日(日) 島根県交通運輸産業労働組合協議会(島根県交運労協)及び連合島根主催で、公共交通利用体験ツアーを開催し、組合員・家族をあわせて64名に参加いただきました。今年は、以前から声をいただいていた県西部(浜田市)での開催となり、当日参加者の皆さんには自家用車を使わずに自宅から公共交通機関を利用してJR浜田駅に集合し、JR浜田運転区の職場見学を行いました。車両見学では車両の運転台に座ってエンジンをふかしたり、非常ブレーキを掛けたりと、実際に運転しているかのような体験をすることができました。また、施設の見学では運転士さんが訓練で使うシミュレーターや駅などで線路内に落ちた物を拾うときに使う缶キャッチャーを体験したり短い時間で普段できない貴重な体験をすることができました。その後は、JRを利用してアクアスに移動し昼食のお弁当やシロイルカのパフォーマンス等各々楽しんでいただきました。今回のツアーを通じて、参加者の皆さんに公共交通について再認識していただく良い機会となりました。



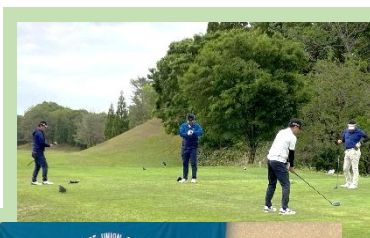
チャリティー親睦ゴルフ大会開催

5月17日(土)、浜田市『金城カントリークラブ』において幅広くチャリティー募金を災害等支援活動として活用することや、各構成組織・各地区の組合員の交流を深め、「顔合わせ」「心あわせ」「力あわせ」から組織の充実・強化を図ることを目的として開催しました。

来賓として連合島根各役員・OB、島根県労働者福祉協議会、こくみん共済coop西部支所、中国労金、連合推薦議員および東部地協、中部地協の皆様にもご参加をいただくなど構成組織・組合員皆様のご理解とご協力のもと、お陰様で84名という多くの皆さんにご参加をいただきました。当日は、小雨がぱらつく中、組合員同士の交流・懇親に繋がる大会となりました。

大会の景品は、今までに被災した地域の物産品を中心とさせて頂きました。

また、チャリティー募金の84,000円は連合島根から赤十字を通じて能登半島地震で被災した被災地へ贈呈させていただきました。



ジェンダー平等推進研修会

6月の「男女平等参画推進月間」の取り組みとして、6月28日(土)に浜田市「浜田ワシントンホテル」において、「2025年度ジェンダー平等推進研修会」を開催しました。当日は、県内各地から総勢37名の参加の下、講師として立憲民主党島根県第2区総支部の「大塚聡子」代表をお招きし、「改めて問う『真のジェンダー平等』とは」教育・労働・生活保護の観点から」と題して講演いただきました。

講演では、衆議院選挙に挑戦した経緯の中で、主婦として子育てや夫のサポートを通じて直面した様々な課題に対して、自分と同じ経験をしてほしくないとの思いから出馬した。

教育・子育て、政治への女性参画の2つの視点から男女平等に向けて現状と課題に触れ、課題解決の方策や将来展望について講義を受けました。





〈ろうきん〉浜田支店

マイプランで借換え

キャンペーン!

ご利用中のローンをマイプランで借換えをして、
クオ・カードをもらおう!

実施期間 2025年6月2日(月)~2026年3月31日(火)

クオ・カード プレゼント!!

(2,000円分)



期間中に、他金融機関等でご利用中のローンをマイプランで借換え^{※1}いただいた方に「2,000円分のクオ・カード」をプレゼントいたします。